

令和元年度

徳島県立川島中学校

学校評価についての総括評価表

令和元年度 徳島県立川島中学校 学校評価についての総括評価表(1)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題				
		評価指標			評価指標による達成度						
					総合評価						
<p>(1) 中高一貫教育の推進</p>	<p>① 中高連携の促進に努め、生徒の個性や能力を伸張するとともに、異年齢集団における社会性の育成を進める。</p> <p>② 6年間の計画的・継続的な教育の研究を進め、中高の一貫性を促進する。</p>		<p>① 中高一貫教育推進委員会を年6回、教科会や授業研究会などを年2回程度定期的で開催し、生徒の現状に応じた教育活動を検討する。</p> <p>② 儀式的行事や体育祭・文化祭だけでなく、必要に応じて行事等を中高合同で実施し、満足度を80%以上とする。</p> <p>③ 特別活動などで、学年をまたがったの活動を取り入れ、6年間を見通した特色ある教育を行っているとの回答を85%以上とする。</p>	<p>① 中高一貫教育推進委員会を年5回、また中高合同の教科会を3回実施した。</p> <p>② 入学式などの儀式的行事や体育祭、文化祭を行い、アンケート結果から、教職員・保護者の満足度は、86%(昨年度70%)・85%(昨年度85%)と目標を達成したが、生徒の満足度は、79%(昨年度67%)と昨年度より増加はしたが目標達成には至らなかった。今後の行事のあり方について継続して検討が必要である。</p> <p>③ 6年間を見通した特色ある教育を行っているかどうかは、アンケート結果から、生徒は93%(昨年度91%)で目標を達成したが、保護者が83%(昨年度91%)と減少し目標達成には至らなかった。生徒の満足度が高いことが、保護者に伝わっていないことが今後の課題である。教職員の満足度は77%(昨年度72%)と少し増加傾向であった。</p>	<p>(評定)</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>生徒・保護者のアンケート結果では、全体の8割近くが本校の中高一貫教育について肯定的である。しかし、児童数の減少に伴い志願者数も減少傾向にある現状がある。志願者の学力については、開校当初に比べ下がっており、現在の生徒の学力にあわせた目標の設定が必要である。</p> <p>また、本校のめざす学校像を、具体化・明確化し、生徒・保護者に伝えていくことが必要である。今後も、数学の先取り学習などの特色ある取り組みを継続していきたい。</p>	<p>○ 数学の先取り学習に中学の早い段階でついていけなくなると、数学の苦手意識、数学嫌いが助長される。5年間で一通りの学習を終わらせようとするためスピードが速く、学力がない者は、その質と量についていけず、勉強嫌いになってしまう確率が相当にある。早い段階で、先取り学習をとらないとする選択も考えてはどうか。</p> <p>○ 「評価指標による達成度について」、②③については進級により生徒、保護者が入れ替わっていることから、前年と単純に比較できないが全体的には数値が上がっているため、充実しているととらえている。</p> <p>○ 中高一貫推進委員会を年5回開いて懸案を話し合われることや、学期に一度教科会を開き授業力向上を図っていることは大切で、継続をお願いしたい。生徒の学力の層に幅ができた中で、個々の生徒に合わせた対策に取り組む努力をされていることは素晴らしい。アクティブラーニングなど研究継続をお願いしたい。6年間を見通した教育を行っているかについて、生徒が93%認めていることは高く評価できる。</p> <p>○ 大人目線だと、文化祭は思考を凝らしている、模擬店も充実しているように思っていたと思うが、生徒の立場だと少し温度差があるように思う。高校生との交流を深めるのに文化祭が全く役に立っていない生徒が8%もいるのには驚いた。</p>	<p>○ 前年度同様、数学の先取り学習に関する課題はあったが、継続して先取り学習を実践した結果、先取りによる効果が得られたと考えられる。特に「アクティブラーニング」の視点からの指導法の改善について継続して中高が取り組んだことで、各年次、各教科での実践が推進されており、今後も引き続き取り組んでいきたい。</p> <p>○ 高校への進学に関し、より一層中高一貫教育の理解を得るように努める。一方で生徒の現状に合わせて、本校の取組を工夫・改善の必要性もあると考える。</p> <p>○ 本校のめざす学校像をこれまで以上に明確にし、生徒・保護者に伝えていくことが必要であると考える。</p>				
		活動計画			活動計画の実施状況						
			<p>① 併設高校と連携し、教科会を通して生徒の現状に応じた6年間の学習計画づくりをする。</p> <p>② 中学生・高校生がともに参加する共通の学校行事に積極的な参加を促す。</p> <p>③ 生活オリエンテーションや専門委員会など、学年の枠を越えた活動を推進する。</p>	<p>① 中高一貫教育推進委員会を年5回実施し、一貫教育における懸案等を話し合った。本年度は学期に一度教科会を行い、各担当学年やクラスの現状や課題について話し合いをもった。また、授業見学会を行い、授業力向上を図った。</p> <p>② 入学式、対面式、身体計測、始業式・終業式(学期ごと)、全校集会(毎月)、文化祭・体育祭、人権教育講演会等を中高合同で行った。</p> <p>③ 委員会活動の実施する上で、さらに活性化を図るため、玄関ホールに各委員会毎の掲示板を設置し、全校集会後に必ず中学生集会をひらき、各委員会からの連絡を行った。</p>							

令和元年度 徳島県立川島中学校 学校評価についての総括評価表(2)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標		評価指数による達成度			
			評価指標		総合評価		
(2) 確かな学力の充実と指導力の向上	<p>① 個別面談の充実や、朝の学習、家庭学習など自主学習の促進に努める。</p> <p>② 学力向上を図る研修の充実や、授業の創意工夫に努める。</p> <p>③ 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習・指導方法の研究を推進する。</p>	<p>① 家庭学習時間（塾なども含む）の平均が各クラス2時間以上をめざす。</p> <p>② 「以前より計画的に学習に取り組むようになった」と答える生徒の割合が70%以上をめざす。</p> <p>③ 「質問タイム」や「補充学習」は学力向上に役立っている」と答える割合を生徒・保護者ともに80%以上をめざす。</p> <p>④ 定期的に読書カードに記入させ、毎月の読書冊数の平均が各クラス2冊以上をめざす。</p> <p>⑤ 中高合同の相互参観授業で学んだことを踏まえて、「小単元ごとに深い学びを促す場面を1回以上設定できた」と答える教員の割合が80%以上をめざす。</p>	<p>アンケート結果</p> <p>① 定期考査期間中に行った調査では、どのクラスも約3時間は学習している。また、普段2時間以上学習している生徒は30%で、昨年度の21%から9%改善されている。</p> <p>② 55%の生徒が「以前より計画的に学習に取り組むようになった」と答えた。ほとんどの生徒が、今まで学習の計画を立てる習慣がなかったため、新至誠ノートは大きな一歩である。</p> <p>③ 生徒・保護者ともに約74%が「質問タイム」や「補充学習」は学力向上に役立っている」と回答したが、目標にあと少し届かなかった。</p> <p>④ 月平均で1年生が2.2冊、2年生が1.3冊、3年生が1.2冊、と学年が上がるにつれて減少傾向にある。</p> <p>⑤ 「小単元ごとに深い学びを促す場面を1回以上設定できた」と答えた教員の割合が、93%と目標を大きく上回ることができた。深い学びの視点から、常に授業改善に取り組んでいる結果だと考えられる。</p>	<p>(評定)</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>昨年度、総合評価でCとなってしまうことから、様々なことを見直すとともに、新たなことにも数多く取り組んだ。主なものとしては、至誠ノートが新しくなったこと、定期考査最終日の学習状況調査、読書カードを活用しての読書記録、「総合学力調査」と「学力推移調査」という中高一貫校用の模試の受検、模試や各種検定の過去問を解くために課題演習の時間を活用したこと、数学検定の年3回実施（昨年度は年1回）などが挙げられる。これらの取り組みが少しずつではあるが、身を結んでいると考えられる。</p>	<p>○ 家庭における学習時間（量）の確保もさることながら、学習の仕方（質）について教科ごとに研究し、生徒に改善していくように仕向ける指導も徹底してほしい。</p> <p>○ 「小単元ごとに深い学びを促す場面を1回以上設定できた」とする自己評価だけでは、指導改善に向けた質の高い取り組みとは言い難く、互いに検証し合う機会が必要である。</p> <p>○ 至誠ノートを新しくするなど、いろいろと改善していただいたおかげで、生徒の勉強への取り組みも積極的になっているように思う。</p> <p>○ 新至誠ノートでの指導が大きな成果を上げたことは評価できる。教員の負担が少なく、より効率的な方法で行ってほしい。帰りの学活の時間に、今日の学習の計画を立てることはよい取り組みであり、期待している。</p> <p>○ 「質問タイムや補充学習が学力向上に役立っている」と答える生徒・保護者の割合が74%と少し減少しているため、より一層効果的な実施方法を考えていただきたい。</p>	<p>○ 今年度から始めた取り組みを振り返って、次年度以降さらに深化・発展させて継続していかなければならない。例えば読書カードではなかなか記録できない生徒もいたため、至誠ノートに読書記録のページを作ったり、もっと至誠ノートを活用してもらうために、帰りの学活の時間に今日の学習の計画を立てる時間を設けたりする予定である。</p> <p>○ 高校と連携しながら、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に引き続き取り組んでいく必要がある。</p> <p>○ 家庭学習時間を増やすためには、保護者との連携が必要不可欠である。今年度から実施している「学力推移調査」の結果を分析し、面談などで有効に活用していきたい。</p>	
			活動計画	活動計画の実施状況			
			<p>① 新至誠ノートを活用して学習の計画を立て、振り返る習慣を身につけさせる。</p> <p>② 効果的な「質問タイム」や「補充学習」を実施し、個々の生徒の力を伸ばす。</p> <p>③ 図書委員会と連携して読書活動を推進し、表現力と幅広い視野を育成する。</p> <p>④ 中高合同の相互参観授業で授業を見学するとともに、積極的に公開授業に取り組む。</p> <p>⑤ 体験的な活動を計画的に実施するとともに、外部との連携を積極的に取り入れることで社会性を育て、問題を解決する能力を養う。</p>	<p>① 7月から至誠ノートが新しくなった。特に定期テスト期間中には学習の計画を立てる時間を設け、考査最終日に学習状況調査を行い、自分自身を振り返らせた。担任の教員が学習時間を把握できるようになり、二者面談でも有効に活用されている。</p> <p>② 例えば3年生の数学の補充学習では、他教科の教員も入って3クラスに分かれて実施するなど、昨年度までの反省を踏まえ、各学年ともに工夫をこらした「質問タイム」や「補充学習」を行った。</p> <p>③ 図書委員会と連携して読書を呼びかけ、定期的に読書カードに読んだ本を記録するようになった。また、昨年度の実践が評価され、文部科学大臣から表彰された。</p> <p>④ 中高合同で、授業力向上のための相互参観授業を年間3回行った。高校の教員が行ったモデル授業を参考に、第3回の相互参観授業では全ての教員が公開授業を行った。また夏休みには、教職員の研修も行った。</p> <p>⑤ 1年生は神戸・淡路での防災学習や地域との合同防災訓練、YMCA 自然体験学習、2年生は人形浄瑠璃の体験や識字学級生との交流学习、2日間の職場体験学習、3年生は沖縄への修学旅行、夢ナビライブを実施した。</p>			

令和元年度 徳島県立川島中学校 学校評価についての総括評価表(3)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	次年度への課題																																			
(3) 生徒の能力・適性に応じた進路の実現	①進路指導の改善・充実を図り、進路達成意欲を高める。 ②三者面談・年次PTAなどにより保護者との連携強化に努める。	<table border="1"> <tr> <th data-bbox="581 177 762 235">評価指標</th> <td data-bbox="762 177 998 811"> ①「生活オリエンテーション」(1年生)、「先輩から学ぶ」(2年生)、「スペシャルアプローチ」(3年生)は学校に生活役に立っていると思う生徒・保護者の割合を本年度も、85%以上をめざす。 ②フューチャーにおいて、将来の進路につながるキャリア教育を実施し、それぞれの発達段階に応じた体験活動が進路選択に役立つとの回答が85%を超えるようにする。 ③「進学説明会」や、「高校体験入学」の実施が進路を見据えた学校生活に役立つとの回答が80%以上にする。 </td> </tr> </table>	評価指標	①「生活オリエンテーション」(1年生)、「先輩から学ぶ」(2年生)、「スペシャルアプローチ」(3年生)は学校に生活役に立っていると思う生徒・保護者の割合を本年度も、85%以上をめざす。 ②フューチャーにおいて、将来の進路につながるキャリア教育を実施し、それぞれの発達段階に応じた体験活動が進路選択に役立つとの回答が85%を超えるようにする。 ③「進学説明会」や、「高校体験入学」の実施が進路を見据えた学校生活に役立つとの回答が80%以上にする。	<table border="1"> <tr> <th data-bbox="1020 177 1289 235">評価指数による達成度</th> <td data-bbox="1289 177 1555 811"> アンケート結果 ①生徒の82%(昨年度84%)が学年それぞれの実践が学校生活に役立っていると回答した。また、保護者の83%(昨年度86%)が、生活オリエンテーション等の実施が子どもたちの学校生活に役立っていると回答した。 ②生徒の85%(昨年度87%)、保護者の85%(昨年度87%)がフューチャーでの様々な学習や体験活動が進路選択に役立つと回答した。 ③3年生の81%(昨年度80%)、3年生の保護者の83%(昨年度78%)が、高校からの「進学説明会」や「高校体験入学」が進路を見据えた学校生活に役立つと回答した。 </td> </tr> </table>	評価指数による達成度	アンケート結果 ①生徒の82%(昨年度84%)が学年それぞれの実践が学校生活に役立っていると回答した。また、保護者の83%(昨年度86%)が、生活オリエンテーション等の実施が子どもたちの学校生活に役立っていると回答した。 ②生徒の85%(昨年度87%)、保護者の85%(昨年度87%)がフューチャーでの様々な学習や体験活動が進路選択に役立つと回答した。 ③3年生の81%(昨年度80%)、3年生の保護者の83%(昨年度78%)が、高校からの「進学説明会」や「高校体験入学」が進路を見据えた学校生活に役立つと回答した。	<table border="1"> <tr> <th data-bbox="1577 177 1816 235">総合評価</th> <td data-bbox="1816 177 1827 811"> (評定) B </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1577 421 1816 811"> (所見) どの項目でも「思う」「ある程度思う」という回答が8割以上となっており、本校の進路指導におおむね理解をいただいているものと思われる。評価指数②、③については目標値に到達しているが、評価指数①については目標値を下回っている。 高校からの進路に関する説明が役立つとの保護者からの回答が、昨年、一昨年と下がっていたが、今年度は5%上がった。高校体験入学や高校生と合同で取り組む学校行事等は、中学生にとって高校生活や進路について考えるよい機会となっている。 </td> </tr> </table>	総合評価	(評定) B	(所見) どの項目でも「思う」「ある程度思う」という回答が8割以上となっており、本校の進路指導におおむね理解をいただいているものと思われる。評価指数②、③については目標値に到達しているが、評価指数①については目標値を下回っている。 高校からの進路に関する説明が役立つとの保護者からの回答が、昨年、一昨年と下がっていたが、今年度は5%上がった。高校体験入学や高校生と合同で取り組む学校行事等は、中学生にとって高校生活や進路について考えるよい機会となっている。		○「評価指標による達成度について」、①②③の結果は昨年度と比較して数値は変動しているが十分達成できている。学力の向上に保護者としても満足できているととらえているのではない。 ○高校に進級してからの進路について説明が十分なされていて、高校からの進路に関する説明が役立つと3年生の保護者から評価されていることは素晴らしい。 ○中高一貫教育校としてのアドバンテージは、6年間を見通した体系的な進路指導ができることであり、明確な目的意識をもって学校生活を送れるよう教師の働きかけが大切である。 ○5年生が2年生に説明する「先輩から学ぶ」、中高一貫教育の3年生の中だるみを避けるための「スペシャルアプローチ」など本校の特色を生かした取り組みの一層の充実を期待している。 ○高校生と日常的に交流できることから、高校生活を身近に感じられ、具体的に進路を考える上で役立っている。	○進路指導体制の確立をはかり、1学年から計画的に進路指導を行うとともに、高校との効果的な連携をはかる。 ○総合的な学習の時間・体験活動については、これまで同様、6年間を見通しながら、生徒の実態に沿った内容で柔軟にプログラムを組むことが重要である。																										
		評価指標	①「生活オリエンテーション」(1年生)、「先輩から学ぶ」(2年生)、「スペシャルアプローチ」(3年生)は学校に生活役に立っていると思う生徒・保護者の割合を本年度も、85%以上をめざす。 ②フューチャーにおいて、将来の進路につながるキャリア教育を実施し、それぞれの発達段階に応じた体験活動が進路選択に役立つとの回答が85%を超えるようにする。 ③「進学説明会」や、「高校体験入学」の実施が進路を見据えた学校生活に役立つとの回答が80%以上にする。																																					
評価指数による達成度	アンケート結果 ①生徒の82%(昨年度84%)が学年それぞれの実践が学校生活に役立っていると回答した。また、保護者の83%(昨年度86%)が、生活オリエンテーション等の実施が子どもたちの学校生活に役立っていると回答した。 ②生徒の85%(昨年度87%)、保護者の85%(昨年度87%)がフューチャーでの様々な学習や体験活動が進路選択に役立つと回答した。 ③3年生の81%(昨年度80%)、3年生の保護者の83%(昨年度78%)が、高校からの「進学説明会」や「高校体験入学」が進路を見据えた学校生活に役立つと回答した。																																							
総合評価	(評定) B																																							
(所見) どの項目でも「思う」「ある程度思う」という回答が8割以上となっており、本校の進路指導におおむね理解をいただいているものと思われる。評価指数②、③については目標値に到達しているが、評価指数①については目標値を下回っている。 高校からの進路に関する説明が役立つとの保護者からの回答が、昨年、一昨年と下がっていたが、今年度は5%上がった。高校体験入学や高校生と合同で取り組む学校行事等は、中学生にとって高校生活や進路について考えるよい機会となっている。																																								
<table border="1"> <tr> <th data-bbox="581 819 762 877">活動計画</th> <td data-bbox="762 819 998 1690"> ①進路指導の充実を図り、生徒の能力や適性を高めるため、行事を通しての体験学習や、質問タイム、補充学習、課題演習(全学年)、スペシャルアプローチ(3学年対象)等の内容の充実を図る。 ②今後の学校生活への目標をしっかりと持たせられるよう「キャリア教育」の内容を充実させ、進路選択を支援する。 </td> </tr> </table>	活動計画	①進路指導の充実を図り、生徒の能力や適性を高めるため、行事を通しての体験学習や、質問タイム、補充学習、課題演習(全学年)、スペシャルアプローチ(3学年対象)等の内容の充実を図る。 ②今後の学校生活への目標をしっかりと持たせられるよう「キャリア教育」の内容を充実させ、進路選択を支援する。	<table border="1"> <tr> <th data-bbox="1020 819 1289 877">活動計画の実施状況</th> <td data-bbox="1289 819 1555 1690"> ①各学年に応じた進路指導を行った。また、質問タイム、補充学習を定期テストに合わせて年5回実施した。また、夏季休業日(5日)・冬季休業日(2日)の補習授業を実施した。それに加え、3年生にはスペシャルアプローチを各教科3～4時間程度、5年生が教えてくれる特設スペシャルアプローチを1時間実施した。 <table border="1"> <tr> <td>②生活オリエンテーション</td> <td>全学年</td> <td>4月</td> </tr> <tr> <td>人形浄瑠璃の鑑賞</td> <td>2年生</td> <td>8月</td> </tr> <tr> <td>先輩から学ぶ</td> <td>2・5年</td> <td>9月</td> </tr> <tr> <td>職業調べ</td> <td>2年生</td> <td>6月</td> </tr> <tr> <td>職場体験学習講演</td> <td>2年生</td> <td>10月</td> </tr> <tr> <td>職場体験学習</td> <td>2年生</td> <td>11月</td> </tr> <tr> <td>職場体験学習発表会</td> <td>1・2年</td> <td>12月</td> </tr> <tr> <td>夢ナビライブへの参加(希望者)</td> <td>3年生</td> <td>7月</td> </tr> <tr> <td>川島高校体験入学</td> <td>3年生</td> <td>8月</td> </tr> <tr> <td>スペシャルアプローチ</td> <td>3年生</td> <td>10月～2月</td> </tr> <tr> <td>特設スペシャルアプローチ</td> <td>3・5年生</td> <td>11月</td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	活動計画の実施状況	①各学年に応じた進路指導を行った。また、質問タイム、補充学習を定期テストに合わせて年5回実施した。また、夏季休業日(5日)・冬季休業日(2日)の補習授業を実施した。それに加え、3年生にはスペシャルアプローチを各教科3～4時間程度、5年生が教えてくれる特設スペシャルアプローチを1時間実施した。 <table border="1"> <tr> <td>②生活オリエンテーション</td> <td>全学年</td> <td>4月</td> </tr> <tr> <td>人形浄瑠璃の鑑賞</td> <td>2年生</td> <td>8月</td> </tr> <tr> <td>先輩から学ぶ</td> <td>2・5年</td> <td>9月</td> </tr> <tr> <td>職業調べ</td> <td>2年生</td> <td>6月</td> </tr> <tr> <td>職場体験学習講演</td> <td>2年生</td> <td>10月</td> </tr> <tr> <td>職場体験学習</td> <td>2年生</td> <td>11月</td> </tr> <tr> <td>職場体験学習発表会</td> <td>1・2年</td> <td>12月</td> </tr> <tr> <td>夢ナビライブへの参加(希望者)</td> <td>3年生</td> <td>7月</td> </tr> <tr> <td>川島高校体験入学</td> <td>3年生</td> <td>8月</td> </tr> <tr> <td>スペシャルアプローチ</td> <td>3年生</td> <td>10月～2月</td> </tr> <tr> <td>特設スペシャルアプローチ</td> <td>3・5年生</td> <td>11月</td> </tr> </table>	②生活オリエンテーション	全学年	4月	人形浄瑠璃の鑑賞	2年生	8月	先輩から学ぶ	2・5年	9月	職業調べ	2年生	6月	職場体験学習講演	2年生	10月	職場体験学習	2年生	11月	職場体験学習発表会	1・2年	12月	夢ナビライブへの参加(希望者)	3年生	7月	川島高校体験入学	3年生	8月	スペシャルアプローチ	3年生	10月～2月	特設スペシャルアプローチ	3・5年生	11月	○様々な行事や活動に保護者の参加を求めたり、活動の様子をホームページなどで知らせる機会を増やしたりしていきたい。 ○中学の先輩だけでなく、「先輩から学ぶ」や「特設SA」など高校生と語り合う機会は、高校からの説明をより具体的に示すものとして有効であるので、今後も継続して実施したい。	○しっかりとした職業観、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うためにも、職場体験学習等の職業生活と触れる機会を充実されたい。
活動計画	①進路指導の充実を図り、生徒の能力や適性を高めるため、行事を通しての体験学習や、質問タイム、補充学習、課題演習(全学年)、スペシャルアプローチ(3学年対象)等の内容の充実を図る。 ②今後の学校生活への目標をしっかりと持たせられるよう「キャリア教育」の内容を充実させ、進路選択を支援する。																																							
活動計画の実施状況	①各学年に応じた進路指導を行った。また、質問タイム、補充学習を定期テストに合わせて年5回実施した。また、夏季休業日(5日)・冬季休業日(2日)の補習授業を実施した。それに加え、3年生にはスペシャルアプローチを各教科3～4時間程度、5年生が教えてくれる特設スペシャルアプローチを1時間実施した。 <table border="1"> <tr> <td>②生活オリエンテーション</td> <td>全学年</td> <td>4月</td> </tr> <tr> <td>人形浄瑠璃の鑑賞</td> <td>2年生</td> <td>8月</td> </tr> <tr> <td>先輩から学ぶ</td> <td>2・5年</td> <td>9月</td> </tr> <tr> <td>職業調べ</td> <td>2年生</td> <td>6月</td> </tr> <tr> <td>職場体験学習講演</td> <td>2年生</td> <td>10月</td> </tr> <tr> <td>職場体験学習</td> <td>2年生</td> <td>11月</td> </tr> <tr> <td>職場体験学習発表会</td> <td>1・2年</td> <td>12月</td> </tr> <tr> <td>夢ナビライブへの参加(希望者)</td> <td>3年生</td> <td>7月</td> </tr> <tr> <td>川島高校体験入学</td> <td>3年生</td> <td>8月</td> </tr> <tr> <td>スペシャルアプローチ</td> <td>3年生</td> <td>10月～2月</td> </tr> <tr> <td>特設スペシャルアプローチ</td> <td>3・5年生</td> <td>11月</td> </tr> </table>	②生活オリエンテーション	全学年	4月	人形浄瑠璃の鑑賞	2年生	8月	先輩から学ぶ	2・5年	9月	職業調べ	2年生	6月	職場体験学習講演	2年生	10月	職場体験学習	2年生	11月	職場体験学習発表会	1・2年	12月	夢ナビライブへの参加(希望者)	3年生	7月	川島高校体験入学	3年生	8月	スペシャルアプローチ	3年生	10月～2月	特設スペシャルアプローチ	3・5年生	11月						
②生活オリエンテーション	全学年	4月																																						
人形浄瑠璃の鑑賞	2年生	8月																																						
先輩から学ぶ	2・5年	9月																																						
職業調べ	2年生	6月																																						
職場体験学習講演	2年生	10月																																						
職場体験学習	2年生	11月																																						
職場体験学習発表会	1・2年	12月																																						
夢ナビライブへの参加(希望者)	3年生	7月																																						
川島高校体験入学	3年生	8月																																						
スペシャルアプローチ	3年生	10月～2月																																						
特設スペシャルアプローチ	3・5年生	11月																																						

令和元年度 徳島県立川島中学校 学校評価についての総括評価表(4)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題	
		評価指標			評価指数による達成度			
				アンケート結果	総合評価			
(4) 基本的な生活習慣の確立を図る生徒指導の徹底	① 生徒一人一人の自覚を促し、基本的な生活習慣を身につけさせる。 ② あらゆる教育活動を通して、きめ細やかな生徒指導を行い、いじめの防止等の取組に努めるとともに教育相談活動の充実を図る。	① 校則や交通ルールへの遵守をめざし、90%以上が交通ルールを守れていると回答できるようにする。また登下校時の交通事故ゼロに努める。 ② あいさつをよくしているとの回答を、90%以上とする。 ③ 携帯電話を正しく使っているとの回答を90%以上とする。	① 校則、交通ルールに関して生徒92%(昨年89%)保護者94%(昨年91%)が守れていると回答。しかし安全意識は高いが事故は起きている。 ② 生徒63%(昨年57%)、保護者87%(昨年79%)があいさつをよくしていると回答。目標値にはとどいていないが生徒、保護者とも前年度より数値が高まってきている。	(評定) B ----- (所見) 自転車運転中の自損事故や交通事故が毎年発生している。交通事故は幸いにも重大事には至っていないが交通ルールやヘルメット着用の指導を徹底したい。 携帯電話やスマートフォンの所持に教員は危機感を持っている。メールやラインを遊びに利用し、様々な問題が発生している。また、JR車中での使用(ゲームを含む)が増加傾向にある。これらの問題解決には学校の指導だけでなく、保護者の協力が不可欠である。中学生集会や、学年集会を利用して、自己肯定感や生命の大切さについて指導した。 また、おもしろ半分勝手に写真や動画を掲載することは許される行為ではなく、人権侵害やいじめ等、重大な事件につながる恐れがあることを指導した。さらに規範意識についても指導していきたい。		○ほとんどの生徒が携帯電話やスマートフォンを所有しており、使用上のルールやマナーの遵守や学校での注意喚起、保護者との連携で未然に防ぐ必要がある。 ○交通ルールが守れている生徒が増えてきている。防ぎようのない事故もあるが、生徒の安全意識が高いのは、喜ばしいこと。 ○自己のあり様を自省し、自律に向けて自覚を促す機会として、道徳や特別活動の時間の改善の視点も肝要である。 ○いじめ防止の取組と教育相談の具体的な取組状況の評価を行っていない。	○全項目について指導の徹底を図るが、特にあいさつの励行については登校、下校時の校外においても呼びかけをして100%の実施につなげたい。 ○家庭と密接に連携し、安全で安心して生活できる学校づくりを推進していく必要がある。 ○問題行動には携帯電話やスマートフォンを使用したメールのやりとりが関係している場合が多い。そこで、外部機関を利用した携帯電話安全教室のより一層の充実を図り、トラブル防止の徹底をしたい。また、定期的にアンケート等を実施して生徒の生活状況を把握し、いじめ等の問題行動を未然に防ぎたい。	
			活動計画			活動計画の実施状況		
			① 社会や学校のルールやマナーを守り、お互いが気持ちよく安全な生活を送れるようにする。また、徒歩通学生徒、自転車通学生徒、公共交通機関を使用する通学生徒、保護者送迎等それぞれの通学状況に応じた指導を行い、登下校時の事故やけがの防止に努める。 ② 生徒相互、教職員、来客者に対するあいさつを徹底させる。特に全校集会等で生徒会本部役員とタイアップしてあいさつ運動を推進する。 ③ 外部講師による講話や講習会を毎学期に実施し、トラブル防止を推進する。 ④ いじめの防止や、早期発見に努め、問題の背景や環境要因も考慮し適切な解決や支援を実行する。	① 入学説明会等で、生徒や保護者へ校則の周知徹底を図った。さらに同日、県警察本部センターによる携帯電話使用の講演を実施した。新入生へのオリエンテーションの実施 毎月の指導週間の実施 JR乗車指導の実施 全校集会後の中学生集会の実施 常時指導の徹底 ② 生徒会によるあいさつ運動の実施 毎月の指導週間の実施 外部講師による安全教室の実施 常時指導の徹底 ③ 喫煙、飲酒、薬物乱用防止教室の実施 携帯電話安全教室の実施 薬物乱用防止街頭ヤングキャンペーン参加 非行防止作文、ポスター作成 スクールカウンセラーの配置 ④ アンケートや「至誠ノート」を始め普段の生活状況等を通して担任が注意深く観察し、いじめ早期発見に努めた。また、校則違反や問題行動等が見受けられた場合、速やかに保護者に連絡を取り、面談の場を持った。交通事故防止等を集会等で指導した。				

令和元年度 徳島県立川島中学校 学校評価についての総括評価表（5）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標	評価指数による達成度	総合評価			
(5) 人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の推進	<p>① 人権教育指導計画の推進と、“あわ”人権学習ハンドブックの活用により人権問題を解決できる生徒の育成に努める。</p> <p>② 人権尊重の意識を高めるため、創意溢れる具体的な取組の展開に努める。</p>	<p>① 「人権学習に積極的に取り組んでいる。」と思う生徒の割合、80%以上をめざす。</p> <p>② 「人権の大切さを学び、それを日常生活に活かそうとしている。」と思う生徒の割合、80%以上をめざす。</p> <p>③ 「人権を大切にしている教育活動が行われている。」と思う保護者の割合、80%以上をめざす。</p>	<p>アンケート結果</p> <p>① 生徒 79%が、「人権学習に積極的に取り組んでいる。」と回答。評価指標にあと一步までせてまっている。</p> <p>② 生徒 77%が、「人権の大切さを学び日常生活に活かそうとしている。」と回答。評価指標には少しとどいていない。</p> <p>③ 保護者 83%が、「本校では人権を尊重する考え方や態度を育てる教育が行われている。」と回答。評価指標をほぼ達成している。</p>	<p>(評定)</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>本校は、多くの小学校から入学してきているという実態があり、まず人間関係づくり・仲間づくりを大切にしながら、実践を重ねている。</p> <p>話し合い活動や表現活動を多く取り入れることで、生徒が主体的に学習に取り組めるような授業形態を工夫している。</p> <p>1年生の「避難所での人権問題」への取り組みは、考える人権として深い学びができ、生きて働く力の育成にもつながった。2年生の識字学級訪問などの体験的参加型学習は、生徒の人権学習への積極性を養うためにも効果的であった。3年生では、沖縄修学旅行の事前学習で学んだことや現地で見聞きしたことを代表者が「人権の日」の放送において全校生徒の前で発表できたことで、戦争の悲惨さや平和を求める意識を高めることができた。</p>		<p>○ “あわ”人権学習ハンドブックを活用した学習および体験的参加型学習を学年ごとにテーマを決めて進めていることを評価したい。各学年において確認できた成果と課題をよく検討し、次年度の学習に生かせるように、学年間の引き継ぎ、申し送りを密にして欲しい。</p> <p>○ 今も全国的に「いじめ」が大きな社会問題であるので、人権問題からも、いじめをしない、許さない生徒が主体的に行動するとともに、保護者・教職員で生徒を支える活動を今後も継続できるように期待している。</p> <p>○ 「人権の大切さを学び日常生活に生かそうとしている」について生徒の77%が認めているが、昨年の81%より下がっており、今後より一層創意あふれる取り組みが期待される。人権委員会で、生徒が主体的に取り組むことで活性化を図っていることは、すばらしい成果である。月1回中高合同で行う「人権の日」の取り組みは、内容があり成果を上げている。PTA 人権教育講演会の内容も充実していて評価できる。</p> <p>○ 生徒同士の間関係は良好な雰囲気の中で学校生活を送れているように思う。これは学校生活の中で一番大事なことだと思う。学校が嫌で不登校になったら取り返しのつかないことになると思うので生徒が落ち着いて学べるのが最善です。</p>	<p>○ 今回の学校評価アンケートで指標に少しとどかなかった項目を真摯に受け止め、今後ともさらに、学習したことがらをもとに態度化・行動化につなげ、意識をより高められる工夫をしていく必要がある。そのために、教職員の研修を充実させるとともに、外部講師による学習も積極的に取り入れていきたい。また、日頃の姿勢からも人権感覚の醸成をはかっていきたい。</p> <p>○ 中高の連携もさらに図りながら、共に学んでいく機会を今以上に増やしていきたい。</p> <p>○ P T A 人権教育講演会など、さらに保護者との連携もとりながら、人権教育をより推進していきたい。</p>
		活動計画	活動計画の実施状況				
		<p>① 生徒の実態に即した人権学習主題を設定し、個別的な視点と普遍的な視点の双方を加味した学習を組み立てていく。また、“あわ”人権学習ハンドブックや「わたしの願い」の活用にも努める。</p> <p>② 生徒一人一人を生かし、大切に育てる学級づくりのため、生活や情報モラルに関するアンケートを行う。授業や指導の中で、いじめは、人権にかかわる重大な問題であり、絶対に許されない行為であることを徹底する。また、自分も相手も大切にすることを築き、コミュニケーション能力を育成するために、体験的参加型学習を取り入れる。</p> <p>③ 人権委員会が積極的に活動する場を作り、生徒が主体的に学び、行動に移していこうとする意欲や態度を育成する。</p> <p>④ P T A 人権教育推進委員会の活動へ保護者に積極的に参加してもらい、保護者の意見も取り入れながら人権教育を充実させていく。</p>	<p>① 各教科における人権教育年間計画を作成し、授業や学校生活の中で人権教育の推進を図った。</p> <p>・ “あわ”人権学習ハンドブックや「わたしの願い」を活用し、普遍的な視点と個別的な視点を結び合わせながら、各学年で共通の内容の学習を進めていった。1年生は「仲間づくり」、2年生は「識字学級」、3年生は「仲間とつながり合う」ということを意識し、同和問題を中心に据え、思いを伝え合うなかで様々な人権問題を解決しようとする意欲を高めることができた。</p> <p>② 人間関係を築く能力やコミュニケーション能力、他の人の立場に立って考えられるような想像力を培うために、また学んだことの態度化・行動化につなげるために、生徒の実態を把握するとともに授業形態も工夫した。</p> <p>・ 生活アンケートを行い、生徒一人一人や学級・学年・学校の実態を把握することに役立てた。</p> <p>・ 生徒が主体的に参加し、体験することで人権感覚を身につけることができるよう、体験的参加型学習を多く取り入れた。</p> <p>1年生：避難所での人権問題（11月） 2年生：識字学級訪問（8月） 3年生：思春期講演会参加</p> <p>③ 人権委員会の活性化を図った。</p> <p>・ 校内人権問題意見発表会を実施（6月） ・ 月1回「人権の日」を設け、中高合同で様々な人権問題について考える時間を持っている。校内放送でも、学んだことや自分たちの思いを全校生徒に向けて発表した。</p> <p>・ 人権標語を作成し、文化祭などで展示する活動や人権新聞の内容の校正など、委員会の生徒主体で行った。</p> <p>④ P T A 人権教育講演会の実施「デートDV防止セミナー」（10月） 講師：デート DV 防止プログラムファシリテーターの阿部和代さん山橋潔子さん</p>				

令和元年度 徳島県立川島中学校 学校評価についての総括評価表(6)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標			評価指数による達成度		
(6) 心身ともに健康な生徒を育てる特別活動の充実	①学校行事, 生徒会活動を通じて生徒の自主性の育成に努める。 ②ホームルーム活動(学級活動)や部活動のより一層の充実と活性化を図る。	①学校行事に積極的に参加していると思える生徒を 85 %以上とし, 保護者の理解も 90 %以上得られるようにする。 ② 3年間を見通した体験学習が, 豊かな心を育むために役立っていると 90 %以上が思えるようにする。また部活動に積極的に参加できる生徒を 80 %以上にする。	アンケート結果 ①生徒 94 %が学校行事に積極的に参加していると回答。保護者 96 %が学校行事が適切に行われていると回答。 ②生徒 93 %, 保護者 94 %が, 体験学習は豊かな心を育むために役立っていると回答。また, 部活動に参加している生徒の 87 %, 保護者 94 %が, 部活動に積極的に参加していると回答。	(評定) A ----- (所見) 学級や学校の一員として, 周囲との望ましい人間関係を形成し, よりよい生活づくりを参画し, 諸問題を解決しようとする自主的, 実践的な態度や健全な生活態度を育てることができたと思われる。		○中高一貫教育の特性を生かした学校行事が行われるので, 引き続き充実した学校生活を送れるように期待している。 ○特色ある学校行事に対して高い評価を得ている。生徒会や部活動にも成果を残している。 ○活動や行事をマンネリ化させない工夫が必要である。	○学校行事や生徒会活動, 学級活動の目的を再度見直し, さらに充実した学校生活を生徒が送れるよう不断の改善を図ってきたい。
		活動計画	活動計画の実施状況				
		①目的や運営のあり方を見直し, 生徒の実態に応じて学校行事をより充実したものにする。 ②各生徒会専門委員会の意義や役割を周知し, 生徒の自主的な活動をすすめるため, 生徒会活動の活性化を図る。 ③学校生活や学級における身近な課題をもとに話し合い, 積極的・実践的に学級の合意が図れるよう指導する。	①学校行事 入学式 4月 忌部の郷めぐり 4月 修学旅行(3年) 5月 YMCA(1年) 6月 阿波文化体験(2年) 7月 体育祭, 文化祭 9月 ②専門委員会 専門委員会を実施し, 呼びかけや活動について, 中学生集会で全校に周知徹底した。 ③特別活動の各領域を通じて, 望ましい人間関係を形成し, 集団や社会の一員としてよりよい学習生活づくりに参画しようとする態度を育てることができた。また, 生徒が学校や学級への所属感や連帯感を深め, 協力して諸問題を解決し, よりよい学校, 学校生活を築こうとする自主的, 実践的な態度を育てることができた。				

令和元年度 徳島県立川島中学校 学校評価についての総括評価表(7)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標			評価指数による達成度		
<p>(7) 環境教育及び国際理解教育の推進</p>	<p>①新学校版環境ISOに取り組むなど環境保全活動に努める。</p> <p>②国際性を高めるため積極的に国際交流を図る。</p>	<p>①「ゴミの分別・節電・節水等に努めている」と回答する生徒の割合が80%以上をめざす。また、電気・水道の使用量については、前年度より増えないように努める。</p> <p>②外国語活動やグローバルの授業が外国の言語や文化に触れ視野を広げるのに役立っていると思える生徒が80%以上となるようにする。</p>	<p>アンケート結果</p> <p>①「清掃や美化活動に積極的に参加するとともに、ゴミの分別・節電・節水等に努めている」と回答する生徒の割合は67%と目標には届かなかったが、昨年度よりは5%改善された。</p> <p>②国際交流 「外国の言語や文化に触れ、視野を広げるのに役立つ国際交流事業を行っている」と回答する生徒は65%であり、目標を15%下回っている。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>C</p> <p>(所見) 高校棟との合同での数字ではあるが、昨年度より電気の使用量は減っている。一方で水道の使用量は、漏水の影響もあって増加している。「新学校版環境ISO」の認定校として、環境美化委員会を中心に活動を継続していく必要がある。</p>	<p>「外国の言語や文化に触れ、視野を広げるのに役立つ国際交流事業を行っている」と答えた生徒が、目標値には達しなかった原因は、オーストラリアからの訪問生徒との交流の際、中学生の全生徒が留学生と深く関わる機会を設けられなかったことや、オーストラリア研修が2年間実施できていないように思われる。</p>	<p>○環境問題を身近な問題と感ずることができるよう、ゴミの分別やリサイクル、リユースの活動を行っているので、生徒の皆さんが積極的に参加できるように地道な継続に期待する。</p> <p>○環境美化委員会が毎朝玄関の掃き掃除をしていることは、気持ちよく1日をスタートするためにも大事である。</p> <p>○国際交流は、オーストラリアの姉妹校や台湾の中学生との交流が継続していることは良いことである。</p> <p>○他国姉妹校等との交流を一層充実させ、他国文化を学ぶと共に、自国文化を学び発信することを通して、コミュニケーション能力を育成する好機としてもらいたい。</p> <p>○外国の文化に触れる機会を増やしてもらいたい。ホームステイを受け入れてくれる家庭を募ったりして国際交流の場を設けるようにしてもらいたい。</p>	<p>○「生徒に清掃活動やゴミの分別・節電・節水等への積極的な取り組みを促し、環境教育に努めている」と答えた教員の割合が77%と昨年度より下がってしまったので、教員の意識をもっと高めていかなければならない。</p> <p>○海外語学研修を実施することで、研修に参加した生徒だけではなく、他の生徒の国際理解や海外への興味関心への換気を促したい。</p>
			活動計画			活動計画の実施状況	
		<p>①「新学校版環境ISO」の認定校として、環境美化委員会を中心に清掃活動やリサイクル活動の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中庭の花壇の水やりと玄関の掃除を環境美化委員が当番制で毎日行い、校内の美化に努める。 ・学期ごとに環境美化委員会で学校周辺のゴミ拾いに出かける。 <p>②国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外語学研修現地校や海外の学校との交流の機会を積極的に取り入れる。また、「グローバル」等の授業を活用して、自他の文化への理解を深めるなど、生徒が積極的に交流できるように適切な指導と準備と行う。 	<p>①環境美化委員会の生徒が、毎朝欠かさずことなく玄関の掃き掃除に取り組み、春から秋にかけては中庭の花壇の水やりも合わせて行った。学期ごとには学校周辺のゴミ拾いに出かけ、地域の環境美化に貢献した。また環境安全教育課の職員を中心に、夏休みには職員室や資料室などの大掃除を行い、校内全体の環境美化に努めた。</p> <p>②国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアの姉妹校からの生徒を受け入れた。学校の授業を一緒に受けることで、生徒が積極的に交流できる機会を設けた。 ・グローバル等の国際理解についての指導を行い、自文化とは異なる文化や他地域への興味・関心を高めた。昨年度に引き続き、2・3年生は台湾の生徒との手紙の交換を継続させている。 				

令和元年度 徳島県立川島中学校 学校評価についての総括評価表(8)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題	
		評価指標	活動計画	評価指標による達成度	総合評価			
(8)開かれた学校づくりと安全教育の推進	①地域貢献活動などの活性化や、ホームページ等を活用した広報活動の充実地域の連携を深め、外部評価結果を活かす取組を推進する。 ②地域と連携した安全・防災教育の積極的な推進に努め地域防災を担う人材を育成する。	①「参観日や学校公開の日など、保護者が学校に来る機会を多く設けている」と思う保護者の割合 80%以上をめざす。 ②「ホームページやメール配信は、学校の様子を知る上で役立っている」と思う保護者の割合 80%以上をめざす。 ③防災避難訓練に真剣に取り組んでいる生徒の割合、80%以上をめざす。	①保護者や地域に開かれた学校づくりとして、授業参観、学年部会、中高一貫教育懇談会等を開催する。 ②専門的な知識や技能を有する地域の方を招聘しての学びの機会をさらに増やすことにより、多様な学習活動の充実と地域の方の本校教育への理解を深める。 ③本校の特色を地域に理解してもらうため、パンフレットなどを作成し、近隣小学校に配布するとともに、小学校保護者を対象とした説明会を実施する。また、ホームページを通して情報を発信する。 ④小学6年生とその保護者を対象とした入学者募集説明会を実施する。 ⑤防災避難訓練にあたっての事前、事後指導の徹底をはかり、総合的な学習の時間で防災学習を行う。 ⑥防災クラブの活動の活性化を図るための取組を行う。	アンケート結果 ①生徒 81%, 保護者 86%が、「参観日や学校公開の日など、保護者が学校に来る機会を多く設けている」と回答している。 ②保護者 61%が、「ホームページやメール配信は、学校の様子を知る上で役立っている」と回答している。 ③生徒 87%が、「避難訓練や防災学習に積極的に取り組んでいる」と回答している。	活動計画の実施状況 ①6月9日の参観日および学年部会では参加率 65.2%であった。その他6月30日、9月28日、10月13日にも参観日を実施した。6月30日実施の県立川島中学校見学会では小学生の児童・保護者が61世帯参加した。中高一貫教育懇談会として7月には3学年対象、10月には2学年対象の高校説明会を実施した。 ②外部講師を招いての主な授業 薬物乱用防止教室 全学年4月(1名) AED講習会 全学年5月(3名) 歯みがき教室 学年6月(2名) 福祉体験学習 1・2年7月(4名) 交通講話 全学年7月(1名) 職場体験学習講演 2年10月(1名) 先輩から学ぶ 2年10月(6名) 人権問題講演会 全学年10月(2名) 消費者教育出前授業 3年11月(1名) わくわく理科実験教室 1年12月(5名) 携帯電話安全教室 全学年12月(1名) 防災講演会 全学年12月(1名) 思春期講演会 3年1月(7名) ③パンフレットを作成し、近隣の小学校に配布するとともに、訪問説明会を12校で実施した。 ④9月と11月に実施、44世帯が参加。その時に企画広報委員会で作成した広報誌「絆」も配布した。 ⑤7月と12月の防災避難訓練では、担任の先生を中心に事前、事後指導に取り組んだ。総合的な学習の時間では、中学1年生を中心に避難所運営について学んだ。 ⑥10月に鴨島支援学校を訪問し、飛散防止フィルム貼付作業を手伝った。	(評定) B ----- (所見) 評価指標①は目標値を達成したが、目標指標②については目標値を下回っている。6月の授業参観の参加率は昨年度に比べやや減少し、2ポイント減となった。今年度は参観日の回数が2回増加したため、その他の参観日に多くの保護者の参加ができた。ホームページについては、昨年度に比べて更新頻度を増やしたが、アンケート結果は昨年度とほぼ変わらなかった。より多くの人々に利用してもらえよう工夫が今後必要である。県立川島中学校見学会の参加者は昨年に比べてやや増加した。近隣の小学生やその保護者に向けて本校の特色を引き続き発信していく必要がある。防災学習について、総合的な学習の時間や避難訓練を通して、生徒の防災意識の高揚が見られた。	○学校ホームページから情報を得られることも大切と思うので、ホームページの充実が必要だが、一方では先生方の負担にならないように工夫することも必要である。 ○開かれた学校づくりに向けて、学校の防災避難訓練などにおける近隣住民への参加協力を依頼したり、地域の行事などへの生徒参加を検討してはどうか。 ○県中は他の中学校より保護者が参加する行事が多いように思うが、14%の保護者が「参加できる機会があまり設けられていない」と回答しているのが不思議だ。 ○県立川島中学校見学会や小学校での学校説明会、入学者募集説明会を通して、子どもと保護者に学校の前向きな姿勢を伝えてほしい。防災クラブが鴨島支援学校を訪問し、飛散防止フィルム貼付作業を手伝ったことは素晴らしい取り組みである。ホームページやメール配信が役立っていると61%の保護者が認めている。担当者の更新業務が過大な負担にならないよう配慮が必要である。 ○学校の防災避難訓練等における近隣住民への参加協力依頼や地域の行事等への生徒参加の可否を探るべきである。防災クラブが、鴨島支援学校を訪問し飛散防止フィルム貼付作業を手伝ったことは素晴らしい取り組みである。	○今後も参観日の授業内容を工夫し、本校の魅力や特色ある取組について発信できる機会にしていく必要がある。 ○ホームページ更新についてのマニュアルの周知徹底が必要である。更新業務の簡素化により教員の負担を減らす必要もある。 ○ホームページで発信する情報をどのようなものにするか、検討して事前に決めておく。保護者がどのような情報を求めているか知る必要がある。 ○中高一貫教育校としての特色を生かし、継続して行える防災学習の仕組みを構築する必要がある。